

他の専門部会からの提案について

8月16日に開催された総合政策審議会第1回企画部会では、他部会への提案が議題となり、未来を拓く人づくり部会に対しては2つの提案があった。

他部会からの提案は、提案を受けた部会において協議し、その結果を10月15日に開催される第2回総合政策審議会にて報告することとなっている。

＜当部会への提案内容及び企画部会における県の取組説明と部会長コメント＞

健康長寿・地域共生社会部会からの提案 2件		
提案1	提案内容	<p>本県においては、秋田市とそれ以外の地域における人口当たりの医療施設従事医師数は最大で3倍を超える格差が生じており、医師の地域偏在が顕著になっている。これには、①県内高校から秋田大学医学部への進学者をみると秋田高校出身者が圧倒的に多いこと、②さらに学区が全県一区となったことにより、秋田高校に優秀な生徒が集まりやすくなっていること、も要因になっていると考えられる。</p> <p>医師の地域偏在を解消するためには、秋田市以外の高校からも医学部進学者を増やす取組が必要であり、そのためにも、<u>県内各地域の進学校のレベルを高いレベルで平準化する取組が必要ではないか。</u></p>
	県の取組説明	<ul style="list-style-type: none"> ・H30.4月の秋田大学医学部医学科進学者数は、県北地区5人、中央地区17人、県南地区5人の計27人で、中央地区が最も多い。 ・毎年、キャリア教育推進協議会、秋田県12高校進学指導協議会等を開催し、各校のキャリア教育や進学指導に係る成果や課題等を共有している。 ・今年度からの新規事業「未来を拓く！あきたの高校生学び推進事業」の中の「地域を支える人材育成事業」において、医学部医学科の教育内容を理解することや、病院での体験学習、医師との交流、メディカルセミナーを実施している。
	高橋部会長コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・医師確保対策を含めて、地域課題の解消に向けた教育は非常に重要。 ・学力向上について専門部会では、大学入試制度が大きく変わっていくことも念頭に置きながら、今年、東京大学に多くの合格者を出した秋田高校の取組などを分析し、広く展開することを協議している。
提案2	提案内容	<p>子どもの健やかな発育とより良い生活習慣を形成することは、県民一人ひとりの生涯を通じた健康づくりの基礎になるとともに、本県の健康寿命の延伸にも寄与するものである。</p> <p>子どもの健康な生活習慣の形成のためには、学校、家庭、地域等が連携して社会全体で取り組む必要があり、<u>教育分野においても子どもの頃からの健康教育の更なる充実に取り組んでいただきたい。</u></p>
	県の取組説明	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の柱の一つに「生涯にわたってたくましく生きるための健やかな体の育成」を掲げ、医療機関等との連携による保健教育の充実を図っている。 ・地域を指定し、健康に関わる研修会を開催。今年は三種町山本地区の小・中学校を対象に生活習慣の確立に向けた取組を実施しており、今後は取組の成果を全県に広めていく。 ・各学校では各々の実態に応じた学校保健計画を立案し、学校教育活動全体を通して健康や保健に関する指導に取り組んでいる。
	高橋部会長コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、教育現場において、関係機関や地域との連携により、様々な取組が進められている。 ・専門部会では、ネットメディアの使いすぎが健康に及ぼす影響についても教育していくべきとの意見が出ている。

※参考 当部会から他部会への提案

① ふるさと定着回帰部会（あきた未来創造部）への提案	
提案内容	女性が活躍できる場が少ないと感じることから、子育てしながら働きやすい仕組みづくり（例えば休日の取得のしやすさや、子育ての経済支援など）を一層進めていくべきではないか。
県の取組説明	<ul style="list-style-type: none"> ・第3期プランにおいて「女性が活躍し続けられる職場づくりの推進」との方向性を定めている。 ・子育てのための事業所の計画づくりの促進や、県商工会連合会と連携により「あきた女性活躍・両立支援センター」を設立するなど体制整備を進めており、今後、こうした取組をますます強化してまいりたい。
藤原部会長コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・当部会でも重要なテーマである。 ・家庭と職場の両方を含めて対応を考えなければ、女性の活躍は難しいと思う。
② 産業振興部会（産業労働部）への提案	
提案内容	若者の県内定着に向けて、子どもたちがふるさとでのキャリア形成への展望を開いていけるように、県内産業への理解を深められる「職場見学」や「インターンシップ」の一層の受入れを企業に要請していくべきではないか。
県の取組説明	<ul style="list-style-type: none"> ・企業を対象としたインターンシップ受入促進セミナーを開催している。 ・県の就活情報サイトにおいて受入れ企業を検索できるほか、教育庁が運営を開始した広域職場体験システムもあることから、地域振興局に配置している「働き方改革推進員」が企業訪問した際に、インターンシップの受入れやシステムへの登録を働きかけていきたい。
喜藤部会長コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・県内にどのような企業があるかを知ることが、学生にとっても一般の人にとっても大切なことと思う。
③ 人・もの交流拡大部会（観光文化スポーツ部）への提案	
提案内容	本県は日本一の指定数を誇る国指定重要無形民俗文化財を有するなど、数多くの文化財の宝庫であることから、これらの周知を図り、観光振興に結び付けていくべきではないか。
県の取組説明	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田ならではの文化を観光資源ととらえ、交流人口拡大の取組を進めている。 ・2020年の東京オリンピック・パラリンピックは世界に秋田の文化を発信する絶好の機会であるため、東京オリ・パラの全国キャラバンのうち、文化を発信するプログラムを県内で開催したり、本県の文化を国内外へ積極的に情報発信したりすることで、交流人口の拡大に繋げたい。
渡邊部会長コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財や文化に伝わる背景を可視化することが大事であり、ガイドの重要性を感じている。祭りの観光資源としての活用も検討したい。
④ 全体への協力依頼	
提案内容	学校教育は地域の人材を生かした教育活動が欠かせないことから、プログラミング教育や各種専門教育など、教育内容を充実させるためにも、全県域で様々な分野の方々の御協力をいただきたい。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・三浦企画部会長が各部会長に協力を呼びかけた。（各部会長や県の各部局からのコメントなし。）